活動のはしら
1　青少年の体験活動の促進
2　青少年団体の育成と支援
3　青少年に望ましい地域づくり
4　青少年に関する相談と対応
5　青少年に関する調査と情報提供

つばさ

神奈川県青少年指導員だより

第25号
―2001．9．29―
発行　神奈川県青少年指導員連絡協議会
印刷　株式会社　アトラス

座談会　これからの指導員のあり方について

「21世紀の青少年に係わる我々の活動をどういうふうに持っていたらいいか」

小澤　一美
（足柄上郡開成町青少年指導員連絡協議会副会長）

出嶋　里子
（川崎市宮前区向丘地区青少年指導員会会長）

司会・東田　乗治
（つばさ編集委員）

長津　松雄
（相模原市青少年指導員連絡協議会会長）

○「完全週休二日に向けて」

小澤　開成町は、小学校が1校、中学校が1校なので、完全週休二日制に向けてどんなことをしていこうか考えています。一つの案として、『農家の休耕田を利用していったらどうか。』と考えています。米、野菜、花、子ども達と一緒に農作業を行って、子ども達が成長する中で、収穫する喜びを知る事も大切なんじゃないかと。

出嶋　ゲートボールとか中学生が参加しているそうですけれど、どう声をかけていらっしゃるのですか。

小澤　お母さん方、ＰＴＡの皆さんを動かすと集まります。

出嶋　うちの地区などでは中学生は土日は部活でほとんどつぶれているわけで、呼びかけても来てくれないのではないかと考えてしまいがちですけど…。

小澤　中学校3年生は、8月10日を過ぎると、ほとんど部活は終わってまして、また老人会のもって行きようがうまいみたいです。手を抜けよといっても、真剣になっちゃうみたいです。

司会　小澤さんの発言の、休耕田・地を利用した実践活動を通して、土に親しむようなことを企画することも、大切なことかと思います。

週五日制となって、各自治体などでも、小中学校などの空き教室利用も含めて、いろいろ地区ごとに頭を悩ませているようですけれども、我々の活動は、より以上にウエートを占めてくるのではないかと感じるのですが。ですから、そういった観点も含めて、地域にどういう事を求めていったらいいのかということを考えていかなければならないと思います。地区ごとの事情があろうかと思いますが、各地域ごとで、先ほどの小澤さんの提案のような、ぜひ利用していこうというような提案があればお願いしたいのですが。

長津　週五日制の受け皿、私の方でも来年の早々ぐらいには立ち上がると思うのですけれども、相模原も南北で細長く、地区ごとでがらりと地域の様子が変わってしまうのです。それで、昔からの地の人、移り住んできた会社勤めの人、様々な技術や経験を持った人が、大勢いるんです。…中略…受け皿の企画にあった人・能力のある人を、公民館等に登録システムを作り、人材バンク的に利用することも考えています。子供たちへの学校からの要求が、3割がた減った分、実社会の経験を子供たちに聞かせるような場を創っていけると良いし、そういった場がほしい。

よく我々から見てどうかなと思う、小学校高学年から中学校くらいの人の、コンビニ前での車座の飲食などでもそうですが、友達同士のコミュニケーションの場がないために、ああして集まっているものも多いようです。ですから非行防止を名目に、ああした場所にたむろする若者を注意して排除すればいいというものでもない。やはり、親御さん方が学校・社会のせいにせずに、責任を持つのが当たり前だと思う。

そうした中で、友達とのコミュニケーションの場なども保証していくようにしなければいけないかと。研修やイベントで健全育成をやるわけですが、なかなかその場にいらしてくれる方は健全育成をやろうとする団体の方ばかりで、本当に聞いてほしい親御さんは来ない。講演や大会とかに参加もし、警察・学校等にも相談に行きますが、なかなかプライバシーの保護ということで、数字の事例や社会の一般的傾向しかでてこないし、身近な対応もない。その上で、もう一度場の設定を全体で考えなければ…。

○「子供たちの居場所と学校解放の実態について」

出嶋　川崎では青少年プラン21の中で、結構学校を開放しようという動きがあります。今までは、留守家庭児ホールというのがありました。それも取り込んでの居場所づくりをやる事になりましたが、実際はこのプランが生かされているのかどうか疑問です。

小澤　できればそのような場所にコンピューターをおいて、ＩＴ教育やゲームなどをさせていくことで、子供たちは自分でかなり取り組めるのではないか。インターネットでは、お金がかかり過ぎるので…。

出嶋　そこで工夫をしていけば、いろいろな可能性が開けていくと思います。

長津　学校関係全てに、コンピューターを今度入れるんでしょう。

司会　全校に完備すると聞いています。

長津　4月からやるんですよね。相模原の場合は、各学校はもちろん、23の公民館に20台ずつはいるのです。そこでパソコン教室を開くのだそうです。すごい人気なのだそうです。

出嶋　教室の対象者は、子供たちですか？

長津　関係なく、地域にお住まいの方ということです。お年寄りが多いんです。

小澤　マウスやキーボードでぼけないようにですか…。

長津　私の地区などでは、夏休みや休日に小学校のパソコンを借りてパソコン教室を行うのですが、15台しかない。90人以上の応募があり抽選を行うのですが、ほとんどは50～60歳位の人です。

小澤　学校を開放しても、コンピューター解放までは行っていない。自由に使って良いですよ、みたいには。

長津　年間計画の作成時に地域の校長先生との話し合いで、使わせていただいているのですが。

出嶋　学校を借りるってすごく難しいです。施設解放と言ってはいますがまだまだ閉鎖的だと思います。

野尻　宏子
（横須賀市青少年指導員連絡協議会会長）

野尻　本当に学校を借りるということは難しい面があります。小学校の空き教室ができたということで、検討委員会を作って地域に解放するということでしたけれども、実際には学校が1番、2番がＰＴＡそして最後に地域という風で…。使用するにもいろいろな制限があるのです。それでもな

座談会出席者の地域の紹介①

野尻　宏子

従来の役員ばかりが忙しい流れを、今期の組織替えにより常任委員さん中心の活動に流れを変えてきた1年目。今までの課題の克服とこれからの活動の方向性を模索中。各行事や活動の中心的役割を果たしてきた立場からのご意見が多かった。

小澤　一美

開成町は、1小学校1中学校という、お互いが顔を知り合うには理想的な条件の中、田舎の部分と都市化の部分が偏在する中、人間関係や地域活動の維持を図るためのご苦労が多いように感じた。活動は全般的に良好である。規模の適度な面や、他団体の大人達の協力もたくさんあるという立場でのご発言が多かった。

いよりはましという面と、どんどん利用してくれということを言われますので、利用しようとすると、手続きの問題、登録の問題等、結局使いたい時にすぐには使えない。また時間的な制約もあります。…夜間の利用ということになるのですが、学校は意外と寂しいところにあるので、危険な面があります。でも基本的には車で来ないようにとか、いろいろな障害もあるのです…。

○「中学生の参加の問題」

長津　話は変わるのですが、中学生を地域の行事等に参加させるために最も有効な行事といえば、運動会かと思います。選手として出場をしてもらうこともあるのですが、やはり準備等の作業で、用具準備やテント張りなどの会場準備を一緒になって働いてもらうことで、お互いを認め合うことができて連携をもてます。育成活動でも環境活動でも「俺は指導員だ、言うことを聞け！」では殴られちゃいますよね。やはり焦らないで、だんだんと段階を踏んで、こういう作業などを通して人間関係などを創っていくしかないのかなと思います。

野尻　私たちの協議会でも、以前その問題がありました。中学生を地域の行事に参加させることがなかなかできない。これを、小学生のうちから交流の場を継続的にやっていくことで乗り越えてきました。子供たちは地域のおじさんとふれあうことを結構求めているみたいです。おばさんに持つイメージとは少し違うみたいです。やはり父親にない男の姿みたいなものを求めているのでしょうか。

○「指導員間の情報交換と継続性について」

長津　継続性の話はうちにとって深刻な問題です。資料（機関誌「はげいとう」）を見ていただくとよく分かるのですが、2年に1度の委嘱替えで、約4割の指導員がいなくなっちゃうんですから。勉強会も頻繁に行わなくてはいけません。さらに、5つのブロック間で活動内容の情報交換を定期的にやっています。委嘱替えの年にはブロックごとの活動発表会なども行います。活動内容の発表と成果を見せていくことで、お互いの活動を学ぶようなものです。

野尻　横須賀では、広報誌に活動内容をまとめて、指導員全員に配布しています。ただ、この資料まで細かくは書いていないので、とても参考になります。

司会　他の地区等の情報交換などはどんな風になっていますか。

出嶋　川崎市にも1年に1度交流の場はありますけれど、他の地域の活動を知るだけで、現実にそれらの活動を、取り入れたり発展させたりしたことはありません。先ほども申しましたとおり、「いいな」と思っても、今すぐにそうできないのが現状です。情報交換をしても、それを知る場があることと、現実に新しい事業を立ち上げることとは必ずしも一致しないと思います。

野尻　昔指導した子供たちが高校生ボランティアとして、下の子達を教えるという形式を取っているのです。この形式を自分の部会だけでなくとなりの部会にも広げる。そういった輪がどんどん広がっていくと良いなと考えます。地区を越えたやり方を、各地区で固まっていないで、どんどん広げるべきだと思います。子どもが少なくなってきている今、現実に何かしようと思っても、参加人数が少なければ成立しませんでしょう。そこで、全チームで一つのことをやっていこうか、なんて話もでてきています。

出嶋　それが私たちの向丘地区で行う運動会のようなものかと思います。日ごろはあまり見かけない子ども達がたくさん参加して真剣に頑張ります。自治会対抗リレーなどはすごい盛り上がりです。このパワーが、35回を数えて、問題を抱えながらも、なお続けていこうという私たち主催者の気持ちを支えているのだと思います。子どもがいない、子どもが少ないからうちの地区からは参加できないという声が出ても、何とか自治会の方々が苦労して競技に参加してくださる。ただこの運動会の問題点は、8月の猛暑の時期なので、時期を考える必要はあると思います。ただ各自治会の諸事情があるのでなかなか動かせないのが実状なのですが。

○「環境健全化活動について」

司会　今まで皆さんのお話を聞いた中では、手の掛からない子ども達に対する活動ということでご議論いただいたのですが、我々の活動の柱の中に「青少年に望ましい地域づくり」というものもあり、そのような活動も重要な部分を占めてくるのではないかと思うのですが…。それで、先ほどの長津さんのお話の中で、コンビニの前でたむろをしている子ども達に一声かける声のかけ方、かける意味辺りが大変難しいのですけれども、そこら辺のご苦労や、方向性についてのお話を伺えればと思うのですが…。

出嶋　コンビニで夜遅い時間や昼にもいるということ自体、家の問題だと思うのです。「何でこんな時間にでていくの？」の一言がないから、出て行っちゃうんじゃないかしら。やはり家庭の一声が第一歩かなと思います。

長津　私などの場合は、「もう暗くなったから早く帰った方がいいよ」と。個人的に見ないで当たらず障らず位の距離感で声をかけていくしかないのです。「そんなところに座っているとお尻冷えちゃうよ！」という感じで。それで、いやな顔をする子もいるし、「帰るか」なんていう子もいるし様々です。

小澤　開成町でも、春夏でお祭りがあるときにパトロールを行い、やはりコンビニなどを中心に声かけなどを行います。9時～10時頃ですので「もう遅いから帰れよ。」という声に対して、すぐに動くのですが、つぎの近くの公園にいるんです。追いかけっこみたいなものですか。日常的には、生きがい事業団という人たちがパトロール等をやって下さっているようです。ただ最近はあまり人数を見かけなくなっているようです。どこへ行ってしまったのかというくらいです。

野尻　パトロール等は、かなり頻繁にやっています。学校の先生などとも共同で回っています。やはり声かけなどは難しいのですが、小澤さんのところと同様に、最近は子供たちをあまり見かけなくなりました。時期もあるのかもしれませんが…。

　相談員さんや先生などとの「大人同士の情報交換」をもっと頻繁にやる必要があるかもしれません。

司会　子供たちの居場所の問題や環境健全化の問題も含めて、お互いのつながりやあきらめない繰り返しなどが大切なことかと思います。

　本日は時間の無い中、皆さんの貴重な経験を分けていただきありがとうございました。この座談会の内容が、他の指導員さん方の活動の一助になれば幸かと思います。本日は本当にありがとうございました。

座談会出席者の地域の紹介②

長津　松雄

相模原という60万人を超える人口を抱えている中の指導員活動と言うことで、様々な問題を抱えながらの活動を行っている。特に、公民館区からの指導員選出という問題は活動の質をかなり制限しているという立場でのご意見が多かった。都市化の先進性と人間のつながりの希薄さの両面を克服できないか、という視点から全般的にご発言いただいた。

出嶋　里子

宮前区向丘地区という都市のベットタウン化された地区で、指導員の活動があまり認識されていない中、28人という限られた人員で、二つの大きな主催事業を行いつつ、さらなる活発な地域活動・親しい人間関係の再生にむけて、ご苦労されている立場からのご意見が多かった。今現在問題を抱えながらも、従来の活動も大切にしていこうという両面をかかえていると伺えた。

「地域の力」

座間市青少年指導員　本多秀臣

私たちの子ども時代には、どこにでも空き地があり、近所の子ども達が、下は小学校低学年から上は中学生くらいまでの集団で毎日のように、かくれんぼ、缶けり、三角ベースなど、さまざまな集団遊びを、夕方暗くなるまでしたものでした。ところが現代では、日本経済の発展にともなって、子ども達をとりまく環境やその生活は大きく変化し、昔には考えられないような豊かなものに囲まれ、子ども達の遊びが自宅内でのテレビゲームなど、一人遊びの偏重が見られます。学校での遊びは別として、戸外で仲間の子ども達と遊ぶことが減少するとともに、友達との遊び方を知らない子が増えてきています。

近年、国や学校、多くの教育機関が学歴偏重、自然環境の悪化、核家族化、都市化による地域の人間関係の希薄化など、様々な原因により子どもの教育の危機が進行していると指摘されて久しくなります。こうした時期に座間市では、文部省の施策「全国子どもプラン～地域で子どもを育てよう」等を踏まえて、子ども達に遊びを通して、社会性、自主性、創造性、を育むことを目的として、「ざま友遊クラブ」を開設しました。この友遊クラブは、いろいろなイベントを開催するなかで、子ども達に「遊び・学び」の場を提供するもので、現在それぞれの小学校区で、実行委員やパートナーなど、ボランティアの協力を得て運営していますが、今後継続していくのに「マンパワー」の確保など困難な面もあります。

青少年指導員としても、こうした活動に積極的に関わっていくことが求められていることは当然のことですが、ボランティアを広く呼び掛けるなど地域を巻き込んだ活動にしたいと思います。これにより、子ども達が自主的に集団遊びを楽しめるようになり、またそれまで希薄であった地域の大人達も、共に子ども達と関わるという共通点を持つことで、地域共同体の再生になればと思います。少々煙たがられても、お節介と言われても子ども達と関わっていく、そんな大人がいる地域。親でもない、仲間でもない、その中間の関係の地域のおじさんをめざして。

「地域の中での一つの役割り」

南足柄市青少年指導員　野中良子

青少年の参加を募る行事の多い中、指導員自身が、小学校の日常生活の授業に参加するという活動があります。

この対象となる授業は、毎週火曜日に高学年の子ども達で構成される囲碁・将棋など二十種類にも及ぶクラブ活動です。

それぞれのクラブに地域の老人会の方や、知識・経験を持った方が参加されています。その中、私たち青少年指導員は、自分たちの興味のあるクラブへ行き、ある時は先生のサポーターであったり、また生徒であったりして子ども達とテーマに従って一緒に活動するのです。

例えば、釣りクラブでは、手作りルアーの作成の際、ナイフの使い方を指導したり、形のアイディアを一緒に考えたり、また川釣りに行った時は、子ども達の安全を守る手伝いをしながら、立派な釣り竿で魚を釣る子ども達の横で、拾った木の枝で一緒に釣りをする中で、子ども達の原始的な釣りへの興味をそそったりすることもありました。

また、ハンズ（物創り）クラブでは、皆で持ち寄った廃品を使って、自分の発想でいろいろ物を創ったり、アドバイスをしたりしました。子ども達が私たちに一生懸命に教えてくれることもあり、そういう時は思わず生徒になった気持ちで聞き入っていました。

地域の先生として、先輩として、後輩である子ども達と関わり、お互いに刺激し合えているという、とても自然で、ここち良い環境になっていると実感できました。

そうすることで、学校以外で出会った時も、思わず言葉を交わし合えるようになっているのです。

人と人との関わりが薄くなってきているこの頃ですが、こういうことが、昔多く見られた人付き合いのような、地域の中での安心感のある人間関係へと育っていく一つの役割にもなっているのではないでしょうか。

「きもだめし」は、学校と家庭と地域の連携から始まった！

藤沢市青少年指導員連絡協議会

明日から夏休み！という7月19日の夜に「きもだめし」は実施されます。地域一番の人気行事で、参加者は年々増えて、今年は中学生76名（おばけ役60名・ボランティア16名）、小学生親子200名と大イベントとなりました。

主役である「おばけ」役は中学生です。11ヶ所のおばけポイントを担当し、すばらしいおばけメイクをして盛り上げてくれます。当日、参加者は夕方5時半に小学校の校庭に集合し、小学校の調理員さんの作ったカレーライスで腹ごしらえをします。体育館でこわーい話を聞いた後、夕闇せまる午後7時、20グループが2分おきに、きもだめしのコースへいざ出発。

地域的に自然に恵まれ、小学校の裏は森・田んぼ道・雑木林と絶好の地形です。いつも歩いている道も夜歩くと違うのか、曲がり角を間違えて同じ所をグルグル回ったり、ちょっと迷子になったりと大変です。午後8時過ぎに先頭グループが戻ってきて順次かき氷を食べ、全員無事帰着したのを確認し、優秀おばけの表彰（参加者の投票により選ばれます）をします。「また、来年会いましょう」の声に「はーい」との答え。午後9時無事閉会です。閉会後小学生からは「来年、中学へ行ったら、オバケやるんだ。」「オバケと握手しておもしろかった。」中学生からは「蚊もいて暑かったけど、やさしく声をかけてくれる人がいて嬉しかった。もっと工夫してこよう」等いろいろな感想が聞かれました。集まった人はみんな、参加してこそ味わえる人とのふれあいを感じてくれたようです。

この行事は、「子どもは地域で育てよう」を合い言葉に学校・家庭・地域の三者が連携して開催をし今年で7回目になります。これからも青少年指導員として、多くの人々とのふれあいを大切にできる継続的な活動をしていきたいと思っています。

「つばさ」第十七期編集委員

・稲垣綿司（横浜市）
・東田乗治（川崎市）
・高山廣一（湘南地区）
・横山孝之（西湘地区）
・宇敷和章（津久井地区）

かもめ通信

◆綾瀬市
○「紙ヒコーキ教室」平成14年1月・2月・3月実施予定
お問合わせ　綾瀬市教育委員会生涯学習部青少年課まで

◆茅ヶ崎市
○「第19回茅ヶ崎市青少年育成の集い」
12月1日（土）
場所　茅ヶ崎市市民文化会館小ホール

◆南足柄市
○「ジュニアリーダー育成研修会」
3月9、10日（土・日）予定

◆座間市
○「青少年フェスティバル」
10月27日（土）西中学校
種目：フットサル、40N4、グランドゴルフ
12月1日（土）南中学校
種目：パターゴルフ、ストラックアウト
12月8日（土）座間中学校
種目：3ON3、グランドゴルフ、宝探し
12月15日（土）東中学校
種目：清掃美化作業、ストラックアウト
12月15日（土）相模中学校
種目：3ON3、ペタンク、グランドゴルフ
3月15日（金）～17日（日）栗原中学校
種目：オーバーナイトハイキング（鎌倉鶴岡八幡宮から栗原中学校まで）

○「第18回市民ふるさとまつり」
11月4日（日）内容：スマートボール、輪投げ

○「しめ縄飾り作り研修会」
12月23日（日）

○第22回青少年芸術祭「青少年美術展」
2月23日（土）～24日（日）

◆藤沢市
○JUMP UP U－20 WINTER CONCERT
12月16日（日）13時30分～湘南大庭市民センター・公民館

◆鎌倉市
○「青少年健全育成講演会」
11月28日（水）14時～15時
鎌倉市中央公民館ホール
問い合わせ　鎌倉市青少年課（内線464）

各地区での研修会をめぐる

― どんな研修会やってるの ―

県央地区

「平成13年度県央地区青少年指導員活動研究会」について

相模原市青少年指導員　飯田　里子
講師紹介　倉田　武明
（神奈川県立清川青少年の家　副主幹　指導担当）

実践を大切に、プロジェクトアドベンチャーに出会う1日

六月十四日、相模原市市民会館にて県央地区青少年指導員活動研究会が行われました。

清川青少年の家の倉田武明先生を講師にお迎えして、県央七地区・48名の出席者とともに、「プロジェクトアドベンチャー」という私には初めて聞く研修会に参加しました。

このプロジェクトアドベンチャーというのは、グループ活動によって様々な体験を通し、冒険をしていくことで、グループ構成員同士の信頼関係の構築やグループの力を育てていく活動でした。

それには、

1　「最大限の尊重の約束事」（一生懸命・安全に・ルールを守る・楽しんでやること）

2　「参加の仕方」（各自の能力にあわせて自分の参加の限度を設定できること）

3　「課題のゴール設定」（到達度を各自が設定で生きること）

という三つの柱がありこれを必ず守らなくてはならないとのことでした。押しつけではなく、日ごろの活動の中から自然に生まれてくることがこのアドベンチャーの特徴で、この点が特に望ましいように思いました。

今回の研修は、様々な「アクティビティ」を行いました。例えば、「マップ」という「アクティビティ」では、一枚のマーカーを基準に東西南北を決めて、自分のいる場所がどこら辺に位置しているのかを知るゲームで、となりの人の住んでいる地域を聞き自分のポジションを決めていくので、自然と会話が起こり、自然と顔見知りのようになっていくところが、おもしろく感じました。「ネームトス」という「アクティビティ」では、全体を四グループに分け、「○○さんはじめまして、△△です。」という簡単な言葉を言いながら、毛玉のようなボールを初対面の人に投げ、受け取ると「△△さんありがとう。○○です。」と答える。この動作をグループ内で繰り返すというものです。10分もたたないうちに、グループ内の人と名前と言葉の感じから人柄までも知ることができました。体と頭をフルに使い、盛りだくさんの「アクティビティ」を、隣接する地区の指導員の方々や行政の方々とやっていくうち、和気あいあいとしたムードの中、研修は進行していきました。

地域で活動するときには、三つの柱を頭に入れ、子ども達が地域の中で子どもらしく活動するお手伝いをしていきたいと思います。

湘南地区

平成13年度湘南地区青少年指導員研修会

茅ヶ崎市青少年指導員連絡協議会会長　吉原　弘子

指導員の活動をアドバイザーを交えて3分野に区切り、分科会・そして全体会で今後の指導の方向性を確認しあう形の研修会でした。

アドバイザーとして、
・育成活動分科会には、
松本　一彦氏
（青少年総合研修センター）
・環境活動分科会には、
野村　幸雄氏
（清川青少年の家　所長）
・広報活動分科会には、
金谷　広志氏
（㈱タウンニュース茅ヶ崎支社長）
をお招きしました。

松本氏のお話のあらましは、県内で多様な活動を展開している青少年（地域・ボランティア）県域ネットワーク活動サークル「ONE'S」の活動発生の経緯や、今後に向けてどのように県内に広めていくかというものでした。分科会の中では、日常の活動を通しての問題点などが多く、今後に向けての提案などもあったと思います。

環境活動分科会では、野村所長の今までの経験からのお話や、日ごろ行う非行防止活動の苦労話などがなされ、「自分がこうありたいと信じる方向で、信念を持って大人には注意して、青少年には話しかけていく」という、野村氏の言葉が印象的でした。

広報活動分科会では、やはり専門家の金谷社長のご意見として、広く読まれることを第一番に編集を行うという、ジャーナリストの基本が印象に残りました。

各市の青少年指導員連絡協議会広報担当者の労作も数多く寄せられ、皆さんのご苦労が伺えました。

湘南地区指導員の、仲間づくりから始まり今回で4回目の研修会。市、町での活動は多少の違いはあっても、目的は〝青少年の健全育成〟です。

子ども達をより理解し、私たちの活動が少しでも地域の中で活かされる為に、専門的な方々のお話を伺いました。

私達大人に子ども達は何を求め、又、何が出来るのかをきちんと見定め、自己満足に終わらず、子ども達が多くの夢や希望を持てる、地域づくり活動を心掛けたいと思いました。

編集後記

爽やかな秋空のもと、行楽にスポーツにと地域の青少年活動に活躍の事と思います。

今期も又、編集委員として「青少年指導員とは…」との原点に立ち返り、県内各地域で展開されている、種々の活動や取り組みを紹介しながら、情報交換や交流の場となる機関誌としての紙面を構成しました。

毎回、快く投稿して頂く原稿や、座談会に積極的に参加された方々の、青少年活動に対する関心の高さに、心より感謝いたします。

さて、来年度から本格的な学校週五日制が施行され、育成活動や非行問題等地域に根ざした青少年指導員が果たす役割の増加やそれに対応した種々の活動が期待されます。

今日の青少年に係る問題行動は、大人の問題として捉え、「大人が変われば子どもも変わる」の標語のように、社会環境の整備や地域の大人や子どもも含めた居場所づくりを、今後に向けて微力ながら勤めていきたいと思っています。

皆さまのご意見・ご感想をお待ちしております。

（つばさ編集委員　東田　乗治）